

【須崎市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

今日、社会の様々な分野で ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）が使われており、IoT（Internet of Things：モノがインターネットを経由して通信し、相互に情報交換する仕組み）やビッグデータ、AI（Artificial Intelligence：人工知能）が活用されている。今後こういった技術をはじめとする技術革新がより一層進展し、「Society5.0」と呼ばれる生活を大きく変えていく超スマート社会の到来が予想されている。

これから迎える新たな時代においては、全ての子ども達が持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生きていくために必要な資質・能力を身に付けることが重要となる。

そのため、単なる「価値の消費者」ではなく、「価値の創造者」となるため、1人1台端末やクラウドサービスを活用した主体的・対話的で深い学び、デジタルドリル等によるスタディログを活用し個別最適化された学び等、従来の教師から児童生徒に知識を与える教育からの転換を図っていく。

2. GIGA 第1期の総括

本市においては、令和2年度末までに高速通信ネットワーク、1人1台端末、大型提示装置等、基本的な ICT 環境の整備を行った。また、その後もプログラミング教材、デジタル教科書、学習支援ツール等、様々な ICT 環境の整備を継続して行っている。

令和5年度に本市が行った調査において、週3回以上1人1台端末を活用する割合について、教員は91.9%（小学校：85.2%、中学校：100%）、児童生徒は89.0%（小学校：84.7%、中学校：98.1%）となっている。また、1人1台端末の活用が学習の役に立つと回答した児童生徒は98.0%（小学校：97.9%、中学校：98.1%）、1人1台端末を活用した授業の理解度が高いと回答した教員は87.1%（小学校：91.7%、中学校：82.4%）おり、効果的な活用についても進んでいる。

一方で、一斉学習の中での ICT の活用が依然として多く、児童生徒の主体的な学びについては課題が山積している。また、教員間での ICT 活用の格差もあり、教員の ICT 活用指導力の底上げが必要である。

3. 1人1台端末の利活用方策

①1人1台端末の積極的活用

これまで授業での活用、プログラミング教育、情報モラル等に関する教員研修を行い、ICTを活用した授業づくりを進めてきた。一方で、時代の流れが速く、常に情報をアップデートしていくことが求められるため、引き続き最新の情報を取り入れた教員研修を実施する。

また、日常的な利活用に向け、場面に応じた活用についても情報共有できる仕組みづくりを進めていく。

②個別最適・協働的な学びの充実

(個別最適な学びの充実)

教員が児童生徒に1人1台端末を「使わせる」だけでなく、児童生徒が選択して「自ら使う」場面を増やせるよう、授業改善を図っていく。

また、AIが搭載されたデジタルドリルの活用や自己調整学習等を通じ、児童生徒が自身の習熟度に応じた課題に向かう環境整備を行う。

(協働的な学び)

クラウドサービスを活用し、児童生徒間での共同編集や意見共有を通じた協働的な学びを推進する。

③学びの保障

オンライン会議システムや学習支援ツール等を活用し、特別な支援を要する児童生徒、不登校児童生徒、外国人児童生徒等の学びの支援を推進する。